

(タイトル)

組合たより「二本松城文化観光施設新築基本設計業務委託」に関する  
第一回ワークショップの開催状況報告

(内容)

2/6(火)の19:00~21:00に二本松市役所会議室で開催された標記ワークショップは、二本松市より受託している「二本松城文化観光施設新築基本設計業務委託」の一環として行ったワークショップで、昨年の基本計画策定時から関わっている委員を含む市内関係団体の方々のご協力によるものです。3回の開催を予定しています。

当日は、発注者側から5名(都市計画課3名、建築住宅課2名)、受注者側から5名(組合1名、青島建築設計室4名)が出席しました。はじめに、主催者側から施設計画の概要の説明を行うとともに、青島代表からはプロジェクターによるプロポーザル提案内容の映像説明を行い、施設全体のイメージに理解を深めていただきました。



■二本松城跡前整備基本計画図

図0.2.6 基本設計 ワークショップ資料



プロポーザル提案書

提出年月日	平成29年 11月 10日
提案事務所名	株式会社 青島松と建築設計室



受付番号	2
------	---

提案（※下枠の縦横の寸法は変えないでください。）A3縦3コ埋い

**■テーマ1：基本設計を取りまとめるプロセスについての提案**

限られた期間での迅速な意思決定と合意形成が求められます。業務開始後、早速具体的な建物イメージをご提示し、わかりやすく具体的な議論がスタートできるようにします。担当との打ち合わせは週1回、直近、月内総会での最終決断の調整を図ります。市道の広域計画をまとめることも大前提と見なします。用途ワークショップと各種団体とのアライアンスも併せて行いたいと思います。S.N.N等の利用を検討します。

**■テーマ2：文化施設併設の前提についての提案**

近世以前、城として機能していた地には、大手門を跡を踏む石段を越え、内大手門と東御門を渡り、真鶴門に至るルートが主たる動線であったと考えられ、武家屋敷街も東御門に隣接していることから、建築は東御門の正面に建物を置き、北に御殿としたと推察されます。将来的には内大手門の遺構整備をはじめ、東御門からのアプローチ空間は様々な整備されていくと思われるので、真鶴門を東御門から見逃せる。築物の取りうる空間を狭く建築物に配慮し、上段の広場とその周辺が広場となります。

**■テーマ3：文化施設併設の基本構成についての提案**

建物は上下2階から成り、多目的スペースとブリッジをつなげる上階を主軸から成り、一階の駅前広場として考え、橋状空間に設けて、二本松の歴史と文化を展示、紹介いたします。展示室は展示・学習型展示の混在した展示室と、体験・体験型展示のオープンスペースで構成され、各種展示は可能となります。下階は展示室と一体的なものを、市民の出入りを促す。展示と交流がテーマの動的な展示の活用を図ります。フロアコトの性格を上下で明確に分けつつ、吹き抜けを介し上下階のアクティビティが関連し合う、一体的な空間を構想いたします。この吹き抜け空間は、下階に自然光をもち、物産フロアを明るく開放的な空間にします。管理運営の面では、上階は市の管理、下階は民間運営と明瞭に分けられると考えますが、その詳細については協議の上、決定いたします。

**■テーマ4：歴史資料館についての提案**

資料を展示する常設展示室を確保、学習型展示スペースとを設け、自然光の採りやすい窓とした展示の落ち着いた雰囲気とします。展示、学習型展示室と合意展示室をつなぐロビー、通路空間は自由に使えるオープンスペースと位置づけ、体験・体験型展示の場や、市民の中学生のワークショップの場となります。こうしたアクティビティが外に出る可変空間の設けを待つことで、地域とつながる博物館をめざすことが可能となり、出会い、気づき、学び、ふるまう「おもてなし」の場を持った博物館となります。また設計者は、建築の基礎設計の段階からその歴史資料館のプログラムを立ちあげ、ワークショップ等を通じて、リードしていくことが求められていると考えます。

「パース」リアリティを創出した際、大断面マルチモニター、A1による展示技術等の最先端技術には、何らかの可能な配慮をします。

**■テーマ5：その他施設併設前提についての提案**

①「市道箕輪門通り」は城内に連続する空間であることに留意し、床はグレーを基調としたモトーンの石畳とし、歩車分離を確保できる床(クッション)で緑石等に埋入りのタイルを埋め込む等の演出をします。「日本の道100選」に合わせたグレード感を高めます。遺構の位置を参照しながらのベンチを置き、1.6mの幅員を表現します。電燈柱は歴史館に準ずることを検討します。

②「多目的スペース」の西側コーナーは築地蔵と豊待台アーチでイベント開催に活用できる場とします。歩車分離は高断層、静謐な駐車場として使える床(クッション)の仕上げを工夫します。

③「遺構広場」は、ここに遺構がある敷地であったことを示すために、床(クッション)を差別的にデザインします。当時の敷地を再現しているもので、たとえばよく出てくる漢字を陶板にプリントし、床面にランダムに埋め込み、文字の骨がたまたまもてを突き出しているような、学習所の雰囲気を感じられる空間とします。

**■テーマ6：コスト削減、環境、景観形成のあり方についての提案**

建物は教育施設とし、フレキシビリティの取りかた改善を確保します。また、展示室で展示を促すための照明、壁面にはLEDのモニターの設置で、機能で落ち着いた、品のある建築とします。一部FPCとする事で、耐震性能と耐火性能を確保します。コスト削減については教育施設による建物の合理化・軽量化を考案します。また、展示室や学習型の機能と可能な設計手法の導入を検討します。

ランニングコストの軽減は、地中埋込ポンプを導入し、かつ外断熱、二重窓等によるエネルギーコストの削減を図ることで実現します。

景観形成のあり方としては、敷地に対する歩みやすい在り方とも大切と考えています。敷地は自然丘陵や砂山山と三方を包み込まれた半島状の地の中央に位置するため、本館には中心性・象徴性が求められ、また、城と調和するシブシブな建物の歴史や東御門跡からの正しさも大切だとします。

建物は真鶴門と城壁、南に男女共生センターという2つのランドマークが対峙し合う緊張感の中にあり、その緊張感を損ねることもなく調和しながら共存できる形態とします。

なお、ワークショップには、観光ボランティア協会、青年会議所、観光協会、郭内町内会、商工会議所、物産協会、振興公社、NPO まちづくり二本松等の関係団体から 16 名の参加がありました。



ワークショップは3班（参加者5~6名+受注者、発注者）分かれて、文化、観光、物産、歴史、二本松城、遺構、展示、交流、景観、DMO、まちづくりをキーワードに、①観光・交流の機能、②地場物産販売所の機能、③展示の機能、④建物の外観イメージ、⑤外部空間（遺構広場、多目的スペース、市道箕輪門通り線のあり方）について意見交換しました。

※用語解説：DMO（デスティネーション・マネージメント・オーガニゼーション）とは、観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。

意見交換は約40分で、各意見はポストイットに記載し、大判の模造紙に班ごとにまとめた上で発表していただきました。各班からは文化観光施設としてのあり方に関する広範な意見から、施設イメージ図に関する詳細な要望まで幅広い意見・要望が出されました。



最後に、担当事務所の青島代表から参加者への御礼と総評、そして次回開催概要の説明を行いお開きとさせていただきました。今後は、これらの意見・要望を参考に修正プランの作成、庁内連絡会での協議・調整等を行いながら、次回のワークショップへ反映していくことになります。

参加者の皆さんご協力ありがとうございました。